てんぐ新聞
'16.12 No.234
発行責任 市岡日出
0883-88-5297

この五年間に、徳島県内で十二の集落が「消滅」しているとの新聞記事がありました。三好市でも三集落だそうで将来的に消滅する恐れがあるのが三二七集落だそうです。人口が減っているのだから、団塊の世代ばかりの集落になっていく現実。新築したばかりの東祖谷小・中学校、統合して一校になりましたが、来年の

誰がなんとかするの？

七十才になる私一人。三月から十一月位までは、三人とか五人増えたりしますが、お祭りなどの集落としての基本的な活動はもうありません。

お堂やお宮も手つかずの状態。消滅する集落の一つといえます。

一方で、外国人の観光客が増えたとか、ラフティングの国際大会が大歩危で予定されたりと、明るいニュースもないことはない。それに、少ないとはいえ、三好市への移住者もある。

それでも、住民の会話の中心は「年寄りばっかりになって」「仕事もないのに若い人にもんで来いとは」「学校なくなったらよめるの」「どうなるんでしょう」と将来の不安視する声がほとんどです。

誰かが何んとかしてくれるんでしょうか、小学校のキッズフェスティバルを見に行ったのですが、その中で、五〇年後の祖谷のかずら橋が写し出され、笑い声もあったのですが、笑える状況ではないのです。かずら橋、かけかえる人がいなくなるのですから、あらくっちにあるもい橋の様にはるでしょう。

東祖谷でも産業の育成にわけて、何もしていなかったのでもありません。補助金を引っぱってきて、栗園をスタートしたり、桑畑、高冷地野菜、苗木栽培などなど、でも、どれも定着していません。新人生がいないという。私の住んでる今井集落でも過疎で住んでるのは、もうすぐ

道路が出来て便利にはなりました。それでも、誰かが何んとかしてくれるのでしょうか。

あの、公共事業なるものが、引っぱっていた時代には、東祖谷にも事業が次々ありましたが、今では残ってる会社も少なくなってきました。

今は、観光事業が中心になりつつありますが、過疎にストップをかけることは難しいとおもいます。

当然といえば当然ですが、自分達が儲かればいいのですから。

その「誰か」にはなってくれそうにもありません。

その「誰か」が出てくるのを待っていては、先に集落が消滅してしまいそうです。

住民一人一人が考え、行政も民間の事業者も利害を越えて、「何んとかしよう」と心を一つにしなければ、残念ながらスト[illegible]プをかけられそうにありません。

自分達に出来る事をしないと、捨てられてしまう様におもって仕方ありません。